

# -地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 10

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

## 充実する本学の地域連携活動

コロナ禍においても、オンライン等を利用し様々な活動が実施された。[対象期間：2021.4～2021.9]

### 【 日本語日本文学科 】

#### 日本語教員資格取得を目指す学生が、香港のSFA英文小学校の5、6年生とWeb交流会を実施

SFA小学校では3年生になると第二外国語で日本語を学ぶ機会がある。2019年まで修学旅行で来日の際、日本語を学ぶ同小の児童らが本学を訪れ、日本語教員を目指す学生と共に書道や茶道などを体験していたが、コロナ禍でその交流ができなくなった。そこで、日本語教育インターンシップ、演習Ⅰの授業の一環として、オンラインの文化交流を企画した。

日本語日本文学科では日本語教員養成に力を入れており、所定単位を修得すれば日本語教員資格取得ができる。コロナ禍で、留学生の来日が難しくなり、海外の協定校での実習が中止になるなど、日本語学習者と学生が交流できない状況が続いていることから、2021年度は韓国の韓南大学や国内外の日本語学習者とのWEB交流会を積極的に開催している。



大学HPより

#### 設楽ゼミが参画する漢字教材コンテンツ「漢字キャラクターあめかちゃん」にウオヘン君が新登場

あかし市民図書館で開催した夏休み特別企画、漢字の研究室「あめかちゃんとまほうのさかな～魚の漢字と旬を学ぼう～」で、魚にまつわる漢字を紹介。

「魚の棚商店街」で知られる明石市にちなみ、魚偏のキャラクター「ウオヘン君」とあめかちゃんら4人の姫が登場し、魚や海の資源について子どもたちと学ぶ。物語が進む中で、漢字を書いたり読んだり、魚を選んだり、多様なワークに取り組んだ。

「漢字の研究会」には、小学1～4年生9人が参加。設楽准教授とゼミの学生3人が演劇形式でキャラクターに扮し、魚の漢字の成り立ちや旬の魚、魚を使った慣用句や魚料理や、SDGsが提唱する「海の豊かさ」を子どもたちが楽しく学んでだ。

本学は大阪・関西万博「TEAM EXPO2025」プログラム/共創パートナーに登録しており「漢字キャラクターあめかちゃん」は共創チャレンジに認定された。



大学HPより

### 【 健康・スポーツ科学科 】

#### 松尾ゼミが作成した運動動画が宝塚市のHP「ちょいす健活 TAKARAZUKA」に掲載

本学と宝塚市が今年2月15日に締結した包括連携協定に基づき、市民の健康指導のため、トレーニング動画の制作に取り組んできた。

「ちょいす健活 TAKARAZUKA」は、健康づくりに役立つ健康情報をまとめたコーナーで今年3月に開設され、その「運動編」を担当している。



大学HPより

#### 「武庫女でダンスを学ぼう！」ダンスの専任教員らがパンフレットを作成

本学には、ダンスの指導方法やダンスパフォーマンス向上に役立つ多様な学びがある。「ダンスの武庫女」の魅力を高校生に知らせるため、健康・スポ

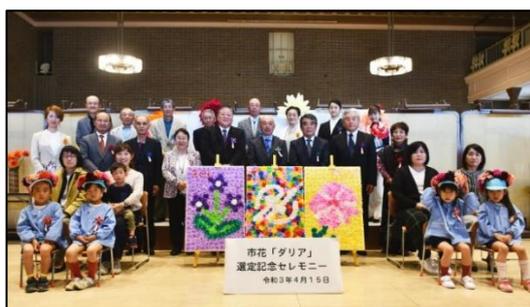
ーツ科学部でダンス専門の指導教員らがパンフレットを作成し、高校やダンス教室等に配布する予定。

ダンス部は1956年に創設し、毎冬の定期公演は今年度で53回を数える。「オールジャパン（全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸）」で2018・19年の2年連続で入選、全国舞踊コンクールで2017年に第2位になるなど全国区で実力を認められており、2015年にはアメリカニューヨークで公演も行った。

中学・高校の教員（保健体育）をはじめインストラクター、コレオグラファー、トレーナーなど進路も多様。国内外でパフォーマーや指導者、研究員として活躍する卒業生も多い。

### 宝塚市の「ダリア市花選定セレモニー」で披露されたパネルアートの作成に参加

宝塚市がダリアを市花に選定した記念として、4月15日、宝塚市役所市民ホールで「ダリア市花選定セレモニー」が開催、作品制作に協力したハンドボール部の学生が参加。



大学 HP より

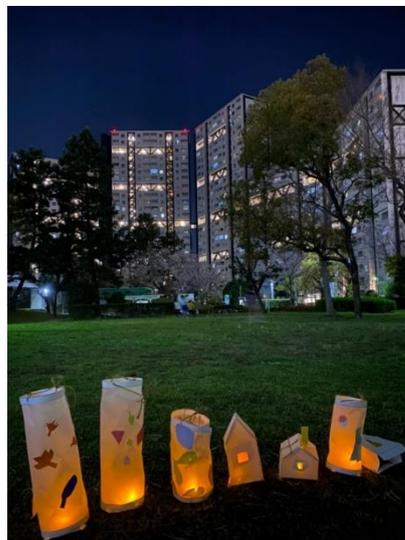
### 【 生活環境学科 】

#### 芦屋浜の団地広場で400個の手作りランプに明かりをともし、YouTubeでライブ配信する”非接触型”のイベントを学生が企画

芦屋市の団地で住民の交流促進に取り組む住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史准教授）の4年生8人が7月24日（土）、無人の広場に手作りのランプ約400個を点灯し、YouTubeでライブ中継した。制作から鑑賞まで「人が集う」ことを避けるコロナ禍ならではの“非接触型”のイベント。

鎌田ゼミが芦屋浜シーサイドタウン（兵庫県芦屋市）にある芦屋浜高層団地第2集会所を拠点に続けている「またあしたプロジェクト」の一環。同プロジェクトでは、集会所のリノベーションやその前の広場に芝生を植えたり、世代を超えて住民同士が集う場の創出に取り組んできたが、コロナ禍で対面の活動が中止に。新たなつながり方を模索する中で、非接触型イベントを企画した。

ランプは家型とランタン型の2種。学生が材料のキットを作り、住民や近隣の子どもたち約200人に配布。作り方はWeb動画で伝え、作品を学生が回収。集まったランプはイベント当日、集会所前の広場に街並みのように展示して午後7時に一斉に点灯。その様子を約30分間学生がYouTubeで生中継した。



大学 HP より

### 【 情報メディア学科 】

#### 高校野球兵庫大会の録画放送で、学生が作ったCMが放映

ケーブルテレビ局「ベイコム」が7月5日から放送する高校野球兵庫大会で、武庫川女子大学情報メディア学科の4年生が作ったCMが放映された。

コロナ禍で登学が制限される中、遠隔で編集を続けた学生たちは「目標に向かって頑張るメッセージを選手たちと視聴者に届けたい」と話した。



大学 HP より

#### 引退した赤胴車が武庫川団地に“着任”これを記念し、丸山健夫教授が「武庫川線と赤胴車」を出版

60年以上、「赤胴車」と呼び親しまれた阪神電鉄の車両が、武庫川団地西街区広場（西宮市高須町）で地域の交流スペースとして活用されることになり、7月10日にオープニングイベントが行われた。

これを記念し、情報メディア学科の丸山健夫教授が「武庫川線と赤胴車」を出版。オープニングイベントの記念品として参加者に配られたほか、阪神

電車の各駅長室で無料配布された。



大学 HP より



大学 HP より

### 【 食物栄養学科 】

#### 宮園校区まちづくり協議会より感謝状を授与

栄養教育論研究室（小林知未講師）では、学童期の子どもたちが望ましい生活習慣を身に付けることができるよう、堺市中区宮園校区の地区組織が主体となり毎月1回実施している「はやおきして朝ごはんを食べる会」に参加している。

2020年度は開催が見送られる状況が続いたが、児童向けにポスターを作成し、感染症予防対策及び健康づくりの支援により感謝状が授与された。



学部 HP より

### 【 食創造科学科 】

#### 大学の研究力と兵庫県特産岩津ねぎから生まれたスティックタイプ栄養機能食品「ねぎのチカラ」発売

食機能性食品の研究開発で知られる松浦研究室（松浦寿喜教授）が、株式会社「味来」と連携し、兵庫県朝来市の特産品・岩津ねぎの成分を分析。ビタミンCの補充機能を明らかにするとともに、岩津ねぎの栄養を手軽に取れるパウダー化を実現した。スティックタイプの「ねぎのチカラ」として7月に

発売。本学の研究力と岩津ねぎのチカラを掛け合わせた栄養機能食品として注目を集めそうだ。

岩津ねぎは、福岡県の「博多万能ねぎ」、群馬県の「下仁田ねぎ」と並ぶ日本三大ねぎとして知られる。ヌルヌルした強い粘液質が特徴で冬に出荷の最盛期を迎え、鍋にぴったりの食材だが、収穫量が少ないので、おいしさや魅力が十分に知られていない。

松浦研究室では農業と地域振興に一役買おうと、朝来市に拠点を置く「味来」と連携。2018年、ひょうご農商工連携ファンド事業としてプロジェクトをスタートし、岩津ねぎの機能性成分の研究を進めてきた。同プロジェクトは2020年6月、兵庫県アグリビジネス創出支援事業にも採択された。



大学 HP より

#### 特許申請中の新技術から生まれたスイーツ「豆蜂（トーフアン）」が発売され、学生が販売促進

有井研究室（有井康博教授）が神戸市の食品会社「ハートフードクリエーツ（株）」とコラボし、淡路島産のはちみつを使った新しいスイーツ「豆蜂」を開発。7月16日にハートフードクリエーツの神戸・御影本店 旬の音(TOKINONE)で販売が開始された。

有井研究室では、豆乳をはちみつで固める研究で特許申請中。「豆蜂」は、この技術を生かした新感覚スイーツ。

豆乳ににがりを加えると豆腐になるが、にがり以外にも豆乳を固まらせる物質は存在する。豆乳に天然の食品添加剤として知られるグルコノデルタラク톤を添加すると、グルコン酸に変化し、豆乳タンパク質を凝固させる。一方、グルコン酸ははちみつに豊富に含まれる有機酸でもあり、有井教授はこれらをヒントに研究をスタート。

2019年9月に「ハートフードクリエーツ」と実用化に向けて共同研究を開始。学生たちは淡路島ではちみつを採取し、パティシエの指導の下、ゼリーやフルーツの飾りつけの提案等、学生目線で商品化に取り組んだ。カップ容器の形や本学の記章を入れたラベルのデザイン、栄養成分表示の作成、「豆と蜂」から連想した「豆蜂（トーフアン）」というネーミングも学生が考えた。

本活動は、公益財団法人日本農芸化学会 100 周年記念事業第 2 回農芸化学中小企業 産学・産官連携研究助成の採択課題「淡路産ハチミツと豆乳を用いた新規スイーツの開発」として実施されている。



大学 HP より

### 【 薬学部 】

#### 新型コロナウイルスワクチンの接種に向け、薬学部と尼崎市薬剤師会、関西労災病院が連携し、尼崎市の薬局薬剤師に希釈・充填手技の研修を実施

尼崎市薬剤師会による「新型コロナウイルスワクチン希釈・充填手技に関する研修会」が開催され、参加した尼崎市内の薬局薬剤師約 80 人に、薬学部教員と関西労災病院の副薬剤部長が実技指導を行った。



大学 HP より



大学 HP より

### 【 看護学部 】

#### 西宮市との包括連携協定に基づき、新型コロナウイルス感染症に関わる応援協力の協定を締結。看護学部の教員が西宮市保健所の業務支援

新型コロナウイルス感染症対応で業務がひっ迫する西宮市保健所から依頼を受け、教員が自宅療養者の健康調査など、業務支援を実施。

最初の支援要請は、西宮市で第 4 波がピークを迎えた 5 月。11 日～25 日まで朝昼夜の 3 交代シフトを敷いて数人ずつ保健所に出向き、2 週間で延べ 49 人が計 194 時間の業務支援を行った。6 月は感染者数が落ち着き、支援要請はなかったが、7 月からは感染者が急増したことから、再び教員らがシフトを組んで

支援を行っている。

支援にあたり、本学は西宮市と結んでいる包括連携協定に基づき、新型コロナウイルス感染症に関わる応援協力の協定を 5 月 10 日に締結した。

#### 看護学部の教員 4 人が「西宮市保健所 新型コロナウイルス感染症第 4 波検証」に協力

看護学部の教員 4 人が、「西宮市保健所 新型コロナウイルス感染症第 4 波検証」に協力。同保健所が把握する全陽性者のデータを分析し、8 月 2 日に石井登志郎・西宮市長らに報告した。

協力したのは看護学部の寶田穂学科長、和泉京子教授、徳重あつ子教授、金谷志子准教授の 4 人。西宮市ではこれまでに 4 度、感染拡大の波があり、現在は第 5 波が到来している。本学では第 4 波がピークを迎えた今年 5 月から、上記の支援を行ってきた。

第 4 波がひと段落した今年 6 月、第 4 波までに同保健所が対応した約 3000 件の陽性者の基本情報、クラスターの発生状況、在宅療養中の往診、訪問看護の実態等を分析。西宮市保健所では入院ベッドの確保が困難な中、在宅療養者への支援を行っている状況も踏まえて検証した結果、医師の往診や訪問看護、必要な薬剤の受渡体制が整うことで、適切な支援と治療に速やかに移行できることが明らかになった。

検証報告会は 8 月 2 日、4 人の教員が参加して西宮市役所で行われ、市側と今後の課題等を話しあった。

### 【 経営学部 】「実践学習報告シリーズ」

実践学習は学生が企業や地域の人たちと協働する経営学部ならではの授業。

4 年間で少なくとも 4 つのプロジェクトに参加する。学生はインターンシップやフィールドワーク、サービラーニングを通して実社会と出会い、課題解決力を培っている。

#### 『阪神 KAN お散歩マップ』Vol. 4 発行

昨年 9 月から関わってきた阪神間連携ブランド発信協議会（神戸市東灘区、芦屋市、西宮市、阪神電気鉄道株式会社）発行の『阪神 KAN お散歩マップ』Vol.4 を学生たちの意見を反映して作成。

#### 神戸市が運営する「KOBE “にさんがろく” PROJECT」に参加

神戸市は平成 24 年から、若者と企業と農漁業者の連携・交流を促進する『ネットワークづくり』を進める「KOBE “にさんがろく” プロジェクト」を実施。令和元年からは、「ノーギョ・ギョギョ・ギョギョ

「ラボラトリーズ」と銘打ち、クリエイターと学生チームをマッチングし、幅広い視点でクリエイティブな活動を行うプロジェクトとして学生を募集。昨年度本学から10人の学生が参加した。

学生たちは「神戸産イチジクの活用と認知度向上」「神戸産水産物の活用と認知度向上」「ウィズコロナ時代における神戸の農漁業のあり方」「農業を学ぶ場づくり」の4プロジェクトで活動を開始。

各グループとも写真撮影や文章、法律などのワークショップに参加し、先ず伝える技術を学び、各プロジェクトごとに多様な活動を経て最終報告会に臨んだ。



大学 HP より

### 「花文化の普及にむけた、新しい取り組みの提案」を企業担当者に提案

花の販売を中心に事業展開する日比谷花壇の協力のもと、花き業界についての講義を受けたり、経営学科の学生にアンケートを行ったりして、若者が花を手取る機会を増やせるような企画提案の報告会を7月30日に行った。

この実践学習を引き受けてくれた日比谷花壇の神戸エリアマネージャーは「全体として興味深い内容でした。アンケートやネット調査、実店舗調査など参考になります。提案された商品やイベントなどについて、今後はぜひ形にしていきたい。」と話した。



大学 HP より

### 宝塚市立図書館の敷地内広場の活用に取り組みを図書館で最終発表

4月から取り組んできた「宝塚市立図書館の誘客・交流創造プロジェクト」の最終発表会を、7月30日、宝塚市立中央図書館で行った。

5月の中間発表のあと、6月には市民向けのアンケートを実施し、その結果を踏まえて、2つに分かれた学生たちが、それぞれ提案を発表。

双方とも図書館周辺施設の活用方法や広報、手配品の具体的な価格から予算内での実施の検討まで行い報告した。



大学 HP より

### 爪噛み防止マニキュアの大人への拡販についてマーケティングプランを報告

爪噛み防止マニキュア「かむピタ」を成人に拡販する調査と提案の最終発表会を7月27日に行った。

「かむピタ」は子どもの爪噛み癖を治すためのマニキュアで、苦み成分を含む。製造販売している株式会社イロドリは、爪を噛む大人に向けた販売検討中で、調査と商品・パッケージの改良、広告宣伝や販売法を提案した。

まず開発経緯や概要など現在の商品の理解を深め、チームに分かれて爪噛み癖の実態やニーズのWEBアンケートとグループインタビューを実施。幅広い対象の回答を得るために、本学近郊の銀行や店舗に直接交渉して、アンケート協力のQRコード設置を依頼し、各自でも拡散に努めた結果200以上の回答を集めた。その結果を中間報、評価をいただいた上で、その結果を参考に大人向けのマーケティングプランを株式会社イロドリの社長と社員に発表した。

各報告について社長からは「短期間にここまでの提案があるとは思っていなかった」との評価のあと、「プロモーション提案では、費用対効果が重要」「違うタイプの商品を作る必要性は理解できるが、競合製品でもある。ネットでランク1位の商品が、自社競合と競ってランクを落とすかもしれない。その対応について言及できればさらに現実的」などと具体的な指摘があった。



大学 HP より

## 【 教育研究所 】

### 市民公開講座オンライン開催・「Light it Up Blue MUKOJO!～武庫女を青く照らそう!～」ライトアップを実施

4月2日は世界自閉症啓発デーと国連で定められ、2日から1週間の発達障害啓発週間の間、本学教育研究所でも、「Light It Up Blue MUKOJO!～武庫女を青く照らそう!～」の青いライトアップを今年も行った。世界とつながった。

オンライン開催で全国から参加者があり、発達障害のある女性が自分らしく、よりよく生きていくための理解と支援について考える良い機会になった。



大学 HP より



大学 HP より

## 地域・自治体等との連携

### 大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創パートナーに

本学は、大阪・関西万博の「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創パートナーとして登録した。女性活躍を推進する女子大学として、SDGsの達成をめざすとともに、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に全学を挙げて取り組む。

MUKOJO Vision「一生を描ききる女性力を。」を掲げる武庫川女子大学は、女性活躍を推進力に、より豊かな社会の実現をめざしている。MUKOJO Visionの描く未来像は、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会」に合致する。

「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創パートナーは、様々な「共創チャレンジ」の創出・支援を行う法人や団体。本学は「ジェンダー平等」を通じて「SDGs」の達成につながる共創チャレンジを、大学の知見と人材を活用して発信する。また、様々な連携を通して培ったネットワーク、実績ある広報活動を通して情報発信にも寄与する。

### 鳴尾連合自治会と武庫川学院・武庫川女子大学の共同プロジェクト「みんなのちっちゃなアートボックス」が、阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大前駅」の駅前公園にオープン

阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大前駅」の駅前公園で、西宮市鳴尾連合自治会と武庫川学院・武庫川女子大学が共同で整備を進めてきた「みんなのちっちゃなアートボックス」が完成。アートボックスの大きさは、幅58.2cm、奥行73.7cm、高さ89.7cmで、いわば“駅前の世界一小さな美術館”。

展示作品は将来、域の方や子どもたちなどに作品募集を行うなどして、文字通り“みんなの”アートボックスとして育てていく予定。



Photo by MIKI

### 一般財団法人材料科学技術振興財団（MST）と「新型コロナウイルスに係るPCR検査及び教育・研究の連携協力推進に関する基本協定」を締結

協定締結式は4月12日、本学中央キャンパスで行われ、一般財団法人材料科学技術振興財団戸谷一夫理事長と本学瀬口和義学長が基本協定書を披露した。



大学 HP より

## 朝日新聞出版『AERA』（6月21日号）「女子大学×企業のスペシャル座談会」に武庫川女子大学が参加

女性のキャリアを育成・支援する女子大学の知見を、テーマ別に分かれてトップ企業と語り合う企画で、本学からは建築学部景観建築学科の森本順子准教授が参加。「PART II 学びが変わる。これからの女性の働き方」で、幅広い分野で活躍する女性を育成する本学の学びとキャリア支援の魅力を語った。

## 芦屋市と包括連携協定を締結

本学は芦屋市と包括連携協定を締結し、8月26日、芦屋市役所で伊藤舞市長と瀬口和義学長による締結式を行った。

包括連携協定は、本学と芦屋市がそれぞれの有する社会的資源及び人的資源の活用・交流を図り、豊かで安心して暮らせる地域社会の持続的な発展に寄与することを目的とし締結。

芦屋市とはこれまでも審議会委員や市民講座への研究者の派遣、また、谷崎潤一郎記念館の運営などを通じて協力関係を築いてきましたが、この包括連携協定を締結することにより、さまざまな分野での日常的な連携協力を促進する。



大学 HP より

## 関西大学との大学間連携を強化

### 新型コロナウイルス PCR 検査の実施協力、非常変災時の入試会場の相互利用へ覚書を締結

関西大学と本学は2018年11月、教育・研究や産学・地域連携、スポーツ交流など、幅広い分野での連携強化を目的にした包括連携協定を締結した。

今回の覚書はこの協定をベースに、新型コロナウイルス対策及び非常変災時の入試対策に関する連携協力事項を追加したもの。

### 《新型コロナウイルス PCR 検査に関する連携協力》

本学は新型コロナウイルス感染拡大に対する学生や教職員の不安を解消し、新しい生活様式に沿った安心安全な教育環境を構築するため2020年11月、薬学部PCRセンターを設置し、運用を行っている。今回の連携協力では、PCR検査の対象を関西大学の学

生、教職員にも拡大。唾液採取と試料送付等の業務を関西大学が行い、PCR検査を武庫川女子大学が行う。

### 《非常変災時の入試対策に関する連携協力》

非常変災時（地震や風水害等の自然災害や感染症拡大等の緊急事態）に、自らの施設で入学試験業務の遂行に支障が生じた場合、相手方の大学の施設を利用することにより、入学試験業務を確実に実施することが目的。

## 【地域を対象とした連携推進支援事業(学内公募)】

教育研究社会連携推進室では、本学の地域での教育研究活動のさらなる活性化を目的として、「学生が地域の自治体や自治会、その他企業や団体等と連携して実施する地域の活性化に資する事業で、且つ、学生の研究やアクティブラーニング、更には教員の研究等に有効と認められる事業」を募集し、資金的援助を行っている。

3年目となる今年は、様々な学部の先生方から特色のある5件の応募があり4件を採択した。

### 《支援事業一覧》

#### ◆教育学部 教育学科 教授 高木史人

兵庫県下における昭和期の口承文芸(昔話)・方言資料収集史の分析及び昔話・方言資料活用についての研究

#### ◆食物栄養科学部 食物栄養学科 教授 福田也寸子

エンパワード・ソリューション型ラーニングによる管理栄養士養成課程における献立作成・問題解決能力育成事業

#### ◆食物栄養科学部 食物栄養学科 准教授 大滝直人

地域貢献を通じた管理栄養士・栄養士としてのコンピテンシー獲得のための養成カリキュラムの提案

#### ◆食物栄養科学部 食物栄養学科 講師 小林知未

児童の食生活改善のための食育支援とその評価に関する検討

※本事業は次年度も募集を予定している。



連絡先：本館5階 社会連携推進課 中村・大谷  
内線：6210、6212 /

HP：[collaboration.mukogawa-u.ac.jp](http://collaboration.mukogawa-u.ac.jp)